

くすの木タイム学習指導案

令和5年6月1日(木) 学習指導Ⅰ 第3学年2組(5年3組教室) 指導者 関口 雄基

【単元】集めてワクワク！広げてウキウキ！みんなの絵本プロジェクト

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	絵本の多様な特徴・よさや、絵本に関わる人々同士のつながりについての理解、それらを得るのに必要な技能	絵本の多様な特徴・よさと、絵本に関わる人々とを関連付けながら課題を見だし、関わり方を導き実践する力	絵本や絵本に関わる人々と関わることへの思いや願いを高めながら、自ら探究する態度
子どもの実態	これまでに読み手として、絵本と関わり、特徴・よさを感じてきているが、絵本と関わる機会が減ってきたため、その特徴・よさを自覚していない。	生活科において、自分の思いや願いの実現に向けて、ペットボトルキャップやゴムなどの身近なものの特徴・よさを基に、おもちゃを作ったり遊び方を工夫したりしてきている。	生活科において、自分の思いや願いを見だし、その実現をすることを通して、身の回りの実生活も豊かにできることを実感してきている。
価値	・絵本は、文やページ数が簡易で、絵を中心にして作られているため、小さな子どもから大人まで楽しく読むことができるものである。絵本の作者は、限られたページ数の中で、目を引くような絵やストーリーの工夫をし、紙の質感やサイズ等にこだわりながら、思いを込め、作品を作り上げていく。読者は、紙の質感やその重さを感じながら、ページをめくるワクワク感を膨らませて読み進めていく。さらに、絵本は、保護者が子どものことを思ってプレゼントしたり、子どもへ読み聞かせをしたりするなど、人と人をつなぐものでもある。3年生の子どもたちにとっても、これまで成長してきた中で絵本に触れてきており、自分の絵本を持っている子も多い。しかし、身の回りにゲームやスマートフォンといった製品があふれ、絵本に対して関心がなくなってしまった子やデジタル端末で本を読む子も見られる。このような子どもたちにとって、絵本に魅了され、絵本とともに生活している方と出会うことは、普段見過ごしていた絵本に再度目を向けることとなる。そして、自ら絵本を作ったり、絵本屋を開店したりすることは、絵本の特徴・よさを多様な角度から見つめることになるとともに、絵本作家の方や絵本屋で働く方、図書館の方や読み聞かせをする方、絵本を読む方など、たくさんの人々が絵本に関わっていることに気付くことになる。また、子どもたちが、絵本屋を開店させようとするのは、地域の人に、絵本の特徴・よさに再注目することの大切さを伝えることである。このような絵本を追求する中で、絵本の特徴・よさを多様な角度から見いだすことができた子どもは、身の回りのものに対しても、それらの特徴・よさを見いだそうとするようになる。そして、ものがあふれる現代において、ものを多様な角度から見て、ものの価値を自分なりに見いだすことの大切さに気付き、こだわりをもって、ものを選択し、ものの関わり方を見直すことができる。		
	絵本作りや、絵本屋作りなどを追究することは、絵本屋で働く方や、絵本作家の方、身近な大人や友達などの様々な人々と関わることとなるため、絵本の特徴・よさを多様な角度から得ることができる。	オリジナルの絵本屋を開店させるという思いや願いの実現に向けて、絵本作りや絵本屋の開店などを追究することは、絵本への関わり方が多様に存在するため、自分たちが生かしたい絵本の特徴・よさや、絵本に関わる人々の思い等の様々な視点から関わり方を考えられる。	絵本に魅了され、その特徴・よさを広めようと熱心に活動している人々と繰り返し関わることは、その人々の思いにふれることになるため、その活動へ憧れをもち、人の役に立ちたいという思いや願いを高めることができる。
見・考・方	絵本や絵本に関わる人々に関する広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、絵本に関わる課題を探究し、絵本との関わり方を問い続ける。		
今後の学習	4年「笑いで幸せ運び隊」において、人を笑わせて楽しませるという、人と関わる学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	身の回りのものについて、込められている思いを含め、その価値を多様な角度から考えることの大切さを自覚し、自己の生き方を見つめ広げていく。			
評価 基準	(①知・技) 絵の見た目や物語性、紙の質感、重さ等の絵本の特徴・よさや絵本に関わる人々同士のつながりを理解している。 絵本の特徴・よさや絵本に関わる人々同士のつながりを比較・分類する思考ツールを使ったり、自他の考えを整理したりして関わり方に生かしている。 (②思・判・表) 絵本やそれに関わる人々についての課題を設定し、必要な情報を収集したり、試行錯誤したりして、関わり方を導き、実践している。 (③主体的態度) 絵本やそれに関わる人々への関心を高め、取組への思いや自信をもち、ものの価値を多様な角度から見直そうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であ う	2	○学級目標や過年度の取組、くすの木タイムの手引きを基に、くすの木タイムの1年後のゴールイメージでもある、対象への関わり方を選択する視点を話し合う。	○過年度の取組から探究のよさを想像できるように、過年度のくすの木タイムでの具体的な活動とそれらの成果が分かる振り返りシートや写真を提示する。	◇「おもしろそう」や「地域のことを知れる」など、過年度の取組に対する思いを記述したり、発言したりしている。 ＜ノート・発言③＞
	4	○前橋市の街中を散策し、これからの取組への情報を収集する。	○街中での様々な取組に「おもしろそう」という思いをもてるように、実際に見たり、調べたりする機会を設定する。	◇関わりたい対象に興味をもち、その理由として「おもしろそう」「地域のことを知れる」などの視点で記述したり、発言したりしている。 ＜ノート・発言②＞
	2	○街中の様子について、気になったことや疑問に思ったことを話し合う。	○街中の様子の中で、自分なりに気になったことや疑問に思ったことを明確にできるように、情報を整理するマトリクス表を用意する。	◇意外だったことや不思議だったことなどを記述したり、発言したりしている。 ＜ノート・発言③＞
	2	○絵本屋で働く方にインタビューをする。	○絵本屋で働く方の思いに気付けるように、「前橋で活動している理由」や「絵本屋になった理由」の視点を提示する。	◇絵本屋で働く方の絵本にかける思いを複数、記述している。 ＜ノート①＞
	1	○インタビューを基に、これから取り組みたいことを話し合い、学習のめあてを決める。 単元のめあて 絵本のよさを見付け、自分たちのオリジナル絵本屋さんを開こう	○絵本屋で働く方への憧れや、「絵本の特徴・よさを見付けたい」という思いが膨らむよう、絵本屋で働く方の思いと自分たちの思いを整理するマトリクス表を用意する。	◇絵本に関わることへの思いとその理由を記述したり発言したりしている。 ＜ノート・発言②＞
か か わ る	1	○単元のめあてを達成するために、取り組むべきことを話し合い、課題1を見いだす。 課題1：自分たちが気付いていない絵本のよさは何だろうか	○自分たちの取り組むべきことを多様な角度から見いだせるように、考えを拡散して記述するウェビングマップを用意する。	◇自分なりの絵本への関わり方を複数、記述したりしている。 ＜ノート③＞
	1	○絵本の特徴・よさを調べる計画を立てる。	○絵本の特徴・よさを調べることへの見通しをもてるように、「今までの生活の中で絵本に関わった経験」や「インタビューしたい相手」の視点を提示する。	◇絵本を見比べたり、インタビューをしたりするといった方法を記述したり、発言したりしている。 ＜ノート・発言②＞

4 課外	○様々な方へインタビューをしたり、好きな絵本を持ち寄って見比べたりして、絵本の特徴・よさを調べる。	○絵本の特徴・よさに対する自分の考えをまとめられるように、特徴・よさを書き込むウェビングマップを用意する。	◇計画通りに、インタビューをしたり、絵本同士の相違点を記述したりしている。 ＜行動・ノート①＞
2	○調べたことを基に、絵本の特徴・よさについて話し合う。	○絵本に込められた思い等も、絵本の特徴・よさとして見いだせるように、インタビューごとに整理する表を用意する。	◇絵本の特徴・よさを様々な角度から、複数記述している。 ＜ノート①＞
2	○これからの自分たちが取り組みたいことを話し合う。 (本時2／2時間目)	○これからの取組の方向を考え、その価値を見いだせるように、考えた取組とそのよさを記述するマトリクス表を用意する。	◇これからの取組案に対する理由を、複数見だし、友達に伝えている。 ＜発言②＞
※以下は、児童が今後の取組の方向を、絵本作りと決定した際の学習計画である。			
	課題2：見付けたよさが分かる絵本を作るにはどうしたらよいのだろうか		
2	○街中の出版業者の方と打合せをし、完成した絵本の状態をイメージする。	○目指す絵本の状態を具体的に想定できるように、評価者を設定し、評価の視点として、「絵本のよさが分かる」の視点を提示する。	◇目指す絵本のイメージを基に、これまでに見いだした絵本の特徴・よさを複数、記述したり、発言したりしている。 ＜ノート・発言①＞
2	○絵本を作るための計画を立てる。	○絵本作りの見通しをもてるように、絵本を作るために必要な情報や過程を時系列で整理する表を用意する。	◇絵本を作るまでの過程を記述している。 ＜ノート①＞
3	○絵本作家の方に絵本の作り方を教わる。	○絵本作家の方の思いや工夫に気付けるように、教わった作り方を整理して記述する表を用意する。	◇絵本を作る上で大切だと思うことを記述したり、発言したりしている。 ＜ノート・発言①＞
2	○絵本のストーリーを話し合い、決める。	○絵本のストーリーに、これまでに見いだした絵本の特徴・よさを取り入れることができるように、「読んだ人に伝わってほしいこと」の視点を提示する。	◇見いだした絵本の特徴・よさから伝えたいものを選択し、発言している。 ＜発言②＞
2	○絵にする場面を話し合い、決める。	○絵にする場面を選ぶ必要感をもてるように、出版業者の方と打ち合わせた内容を提示する。	◇設定したページ数に合わせて場面を決め、友達に伝えている。 ＜発言②＞
7	○試しの場面絵を描き、他の班からの評価を基に改善策を考える。	○自分たちの場面絵の改善策を見いだせるように、課題を解決した状態の具体図と、場面絵のよい点と改善点を整理できるPMNシートを用意する。	◇試しの絵の改善点を、自分や友達の取り組みたいことに沿って記述したり、発言したりしている。 ＜学習プリント・発言②＞
3	○改善策を基に、試しの場面絵を改善し、絵本の原本を完成させる。	○絵本を作る目的を想起できるように、「読んだ人に伝わってほしいこと」の視点を提示する。	◇見いだした改善策に沿って、絵を作り直している。 ＜場面絵①＞
課外	○絵本作家の方に絵本の原本を見せる。		
1	○自分たちの絵本に対する、絵本作家の方の評価を基に、これまでの成果を話し合う。	○今までの追究の成果を実感できるように、作った絵本と、絵本作家の方からの感想を提示する。	◇オリジナルの絵本屋を作ることに沿って、自分たちの取組の成果を記述している。 ＜ノート②＞

	3 課外	○絵本作家の方からの話や、絵本を読む頻度や読書をする頻度に関する調査を基に、感想や疑問を話し合い、課題3を見いだす。 課題3：本のよさを知ってもらおう絵本屋さんを作るには、どうしたらよいのだろうか	○絵本のよさを発信する目的と相手を明確にできるように、絵本作家の方から聞いた話を振り返る際に「調査で意外だったこと」の視点を提示する。	◇今までの取組を基に、絵本の特徴・よさを知らない人に、絵本の特徴・よさを伝えたいという思いを記述している。 ＜ノート③＞
	3	○絵本屋で働く方に、絵本屋を作る際に大切にしていることを聞き、今後の計画を話し合う。	○目指す絵本屋の状態を具体的に想定できるように、評価者を設定し、「絵本のよさを伝えられる」という評価の視点を提示する。	◇お客さんの立場で考えながら、目指す絵本屋さんについて記述している。 ＜ノート②＞
	15	○絵本屋の準備をする。 (自分たちの取組によって、来店してくれた方にとどのような影響があるのかを話し合う。)	○伝えたい内容やそれを伝える方法を決められるよう、街中の絵本屋で働く方から聞いた、配置やポップ、自分たちの想いの伝え方の工夫等をまとめて提示する。	◇伝えたい内容に適している方法で、絵本屋作りをしている。 ＜発言・ノート・行動②＞
	2	○絵本屋に人を呼ぶ方法を調べ、話し合う。 (例：読み聞かせ会の実施、ホームページを使った宣伝、チラシ等)	○より自分たちの絵本の特徴・よさを届ける方法を見いだせるように、「絵本のよさが広まり、自分たちの思いが届くか」の視点を提示する。	◇PR方法のよさと、自分たちの思いとを関連付けながら発言したり、記述したりしている。 ＜発言・ノート②＞
	課外	○自分たちの絵本屋をPRする。		
	課外	○絵本屋を開催し、アンケートを実施する。		
・まとめ ・生と ・かめ ・する	2	○アンケートを基に、自分たちの取組の成果を話し合う。	○自分たちの取組の成果を実感できるように、課題を解決した状態の具体図と感想を集計するシートを用意する。	◇自分たちの絵本屋さんの成果を発言したり、記述したりしている。 ＜発言・ノート①②③＞
	2	○1年間の成果を基に、自分たちの取組が実社会へ貢献できたことの有無や探究的に学ぶことの価値について話し合う。	○ものの価値を多面的に見つめることの大切さについての概念的な理解や自分の生き方の変化を実感できるように、これまでの追究のノートや学習プリントを見直す機会を設定する。	◇生活を豊かにすることに対する概念的な理解や変化した自己の生き方への思いを記述している。 ＜ノート①②③＞

本時の学習（21／70時間目）

ね ら い 「絵本屋を作りたいという思いや願い」「自分たちが見いだした絵本のよさを伝えること」「くすの木を通して成長した自分」といった多様な角度から、自分たちが取り組むべきことを考え、話し合うことを通して、自分たちの取組に価値を見いだすことができる。

評価項目 これからの取組案に対する理由を、複数見だし、友達に伝えている。

<発言②>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・前回言ったとおり、これまで絵本のよさを調べてきたけれど、調べただけでは、人の役に立ったと言えないと思うな。 ・前回考えた取組についてみんなで話し合って、これからクラスとして取り組みたいことを決めたいな。（目的意識） めあて：これからクラスで取り組みたい活動について話し合い、みんなで決めよう	○これまで絵本との関わり方のみでは、自分たちの思いや願いの実現とは言えないことを自覚し、新たな関わり方を見いだすことへの思いを想起できるように、ゴールイメージを提示し、進捗状況を問いかける。 ○学級全体で話し合い、これからの学級の取組の方向を決めるという本時の見通しをもてるように、前時の振り返りを読み返すよう促した後に、本時に取り組むことを問いかける。
2 今後の取組案とその根拠を話し合う。 ・ぼくは、絵本のよさが伝わるような、お気に入りの絵本探しをするのがいいと思うな。絵本に詳しくなれば、絵本屋さんを開くことができると考えたよ。 ・友達は、「オリジナルの絵本を作りたい」って言っているな。どうしてそう思うのか、理由を知りたいな。 ・友達は、絵本を作れば、前に自分たちが見付けた「ストーリーがいい」という絵本のよさを伝えられるって考えたのだね。確かに、楽しくって、さらに、感動するような絵本を作ったらすごいよね。 ・でも、絵本探しもいいと思うけどな。ぼくたちの知らないすごい絵本に出会えるかもしれないし。その絵本で、自分たちが見付けた絵本のよさをもっと伝えられると思うからね。 ・どっちも理由がよく分かるし悩んできたな。何かいい考えはないかな。 ・友達は、両方やりたいって考えているよ。確かに、2つの考えをくっけてもよさそうだね。 ・まずは、絵本作りに取り組んでいくのがいいかな。絵本作りをする時に、素敵な絵本を探して、それをお手本に絵本を作っていけば、2つの考えを大切にできると思うからね。（目的を達成した意識）	○考えた取組案の根拠を想起できるように、単元のめあてや、子どもが調査して見いだした絵本のよさの一覧を提示し、大切にしたい絵本のよさを問いかける。 ○それぞれの取組案のよさに気付けるように、取組案が異なるペアで取組案を伝え合うよう促す。 ○複数の取組案の共通点や差異点を見付けられるように、取組案を選ぶ視点「絵本のよさを伝えたい」「オリジナル絵本屋さんを作りたい」「人の役に立ちたい」で根拠を色分けして板書する。 ○より根拠が明確となった取組案となるように、色分けした板書から色が少ない取組案を共有し、根拠を付け足せることの可否を問いかける。 ○自分の考えた取組案に対して、その必要性を自覚できるように、各自の立場とその根拠について再度説明するよう促す。 ○取組案を統合したり、選択したりできるように、合意形成の方法が示された「くすの木タイムの学び方」を提示し、本時で役に立ちそうな方法をペアで話し合うよう促す。 ○納得して取組案を決められるように、それぞれの取組案を生かす方法の有無を問いかける。
3 本時の学習の振り返りをする。 ・友達と話し合ったら、これから取り組みたいことがはっきりしたな。これからは友達と頑張っていきたいな。	○今後の追究への意欲と自信を高められるように、振り返りの視点として、「単元のめあてへ近づいているか」を提示するとともに、取組の内容を決められた過程のよさを称賛する。